

釧路南ロータリークラブ会報

第26回 例会報告 2010.1.15 通算1332回

・点 鐘 工藤会長

・ロタリーソング
「我等の生業」



ソングリーダー 佐野 実会員

・お客様と来訪ロータリアンの紹介
釧路北ロータリークラブ 松原 久幸君



・会長挨拶



皆様こんにちは。先週は、新年交礼会と言う事で、とても楽しい一時を、過ごさせて頂きました。また、出席率も良かったので、とても嬉しかったです。さて、ハイチの大地震ですが各国から支援救命と被災者の救済活動も始まりました。報道やニュース等でしか知る事が出来ませんが、がれきの下に閉じ込められた方々の救出を一刻も早く、心からお祈りしたいと思います。さて、話は変わりますが、この冬の大雪被害は、北海道から九州まで記録的な大雪に見舞われ、被害拡大だそうです。日本列島は、普段から豪雪地帯ですが、特に新潟では昨日までに、約280センチの積雪だそうです。また、この大雪による死亡事故のほとんど全てが、屋根の雪下ろし中の転落事故だそうです。ほとんどの場合、命綱を付ける事は無く、その実態は「自分だけは大丈夫」「まさか自分が屋根から転落する事は無いだろう」という過信が、事故の原因だそうです。平均的な雪の重さは1立方メートルあたり およそ100キロとされています。つまり、100平方メートルの屋根に1メートルの積雪があるとすればその総重量はなんと10トンになります。テレビで、明らかに2メートル近くも積もった、屋根の雪下ろしをしている様子を見れば目にしますが、100平方メートルの屋根に2メートルの積雪があると、20トンもの重量があることになります。屋根の雪下ろしを放置すると、確実に家は崩壊するらしいです。しかも、連日屋根の雪下ろしを行わなければならない、来る日も来る日も延々と雪下ろし作業が続き、さらに、屋根から下ろしたその雪を放置すると家の壁や、窓ガラスが雪の重さで壊れてしまうということです。雪を排除しなければならぬのですが、その雪を運ぶ手段も限られています。大きなトラックを使いたくても、道路に雪が積もり、その雪を排除する間もなく、どんどん降り積もる雪、つまり、雪その物を運ぶトラックさえ、動くことが困難になっているらしいのです。つまり、大通りから住宅街に入るまでの間の全ての雪を排除しなくては、住宅街の奥深くに入り、屋根から下ろした雪を取り除く事は出来ないと言う事なのです。結果として雪が降り続く限り、行政の処理能力をはるかに超える結果となるそうです。とにかく屋根の雪下ろし作業は可能な限り命綱をつけて、単独で行わない様にとの事でした。釧路は、雪が少ないと有名ですが、今年は異常気象です。皆様も家の周辺の除雪作業には屋根から落ちてくる雪に十分注意して頂きたいと思います。

・幹事報告



- * 1月のプログラムを、釧路北・釧路西・釧路ベイ・根室西・浜中各ロータリークラブより拝受しております。
- * 釧路西・根室西・厚岸各ロータリークラブより、会報を拝受しております。
- * 下期の会費の請求は来週発送いたしますので、納入をお願い致します。

・委員会報告 親睦委員会

・本日のニコニコ献金

工藤ゆかり会員、長倉巨樹彦会員
花田 善廣会員、北上 俊一会員
木内 治彦会員、清水 哲会員
佐藤 玄史会員、長井 一広会員

下期もよろしく
お願いします。

出席委員会

会員 25 名 12 名出席 出席率 48%

・本日のプログラム

「 会員卓話(年男大いに語る) 」

担当 職業分類委員会

花田 善廣会員



私は戦後の昭和 25 年に生まれました。今年、その私が還暦を迎えます。還暦とは何かをウイキペディアで調べてみると、干支が一巡して起算点となった年の干支に再び戻ること、通常は人間の年齢について言い、数え年 61 歳 (生まれた年に 60 歳を加えた年) と記されています。本卦還りとも言われその年は「今年、還暦

を迎えた」のように表現します。現在では数え年に代わって満年齢を用いることが多くなったため、数え年 61 歳に代わって満 60 歳を還暦とする考え方が一般的になっています。そこまでは生きられません、120 周年を大還暦、30 周年を半還暦というそうです。私の廻りの先輩諸氏は、何年か前に還暦を迎えお祝いもしました。ところが自分の番になると、全く実感がないのです。自分はまだ若僧で、20 代の頃から心は成長していないように思えます。きっと還暦のお祝いも辞退すると思います。そんな自分でもこの年を迎えまして思うことは、設計を行っている仕事仲間のほとんどが 50 代 60 代、40 代が少々いるだけです。20 代は極端に少ないのです。私は、それを心配しまして、数年前に釧路の 30 代中心の若手設計者に進めて、横のつながりができる集まりを作らせた事がありますが、1、2 度の集まりでそれ以降は進んでいないようです。このまま進むと、経済不況での仕事量の問題もあり、あと 10 年、15 年で釧路の設計者は極端に少なくなり、確実に衰退へと向かうと思われま。技術の衰退を防ぐ時間はあまり残っていません。そこで、私とその還暦を迎える年の初めに思うことは、以前は還暦を迎えて仕事を引退する職場も多かったと思いますが、今は満 65 歳を定年とするところも増えてきています。私も 65 歳を定年と考えて、これから数年間、何ができるかを考えてみると、体のことも考えながら、与えられた仕事をひとつずつ、着実に進めていながら、若手の育成も行うことが、育てて頂いた社会へ、お世話になった廻りの方々、家族への恩返しと考えています。

森江 洋之会員



生い立ちから現在までのことを語って頂きました。

・次回のプログラム

1月22日(金)

「 ロータリー理解推進月間に因んで 」

会場 釧路ロイヤルイン 11F

担当：ロータリー情報委員会

・点 鐘 工藤会長
今週の会報担当：長井一広会員